

地域支援ネット架け橋 Newsletter13

2016年1月ー3月



＜宮城三陸3.11東日本大震災追悼記念会＞

未曾有の大惨事から5年目を迎えました。被災地をはじめとして、世界中で追悼記念会が催されたことに大きく励ましを受けています。私たちも石巻にある福祉会館で追悼会を催すことができました。来会者は参加者とスタッフも入れて約180名を越えるものでした。企画の中には、外部との繋ぎでSkypeを通して行いましたが、様々なアクシデントが起こり、各所の映像は映るものの会話には至りませんでした。ですがカリフォルニア日本語部教会とようやく音声を通じ、被災地に向けてメッセージを語っていただきました。その事で、震災を経験した方々は大きな励ましを受けました。参加者からは嬉しい報告を沢山いただきました。今回は「被災地を忘れない」を題目にした追悼会は5年を迎えたこの時期に符合するものでした。

昨年3月より設立した「宮城三陸3.11東日本大震災追悼記念会準備委員会」は、石巻で活動するクリスチャンメンバーが中心となる委員会です。気仙沼市、登米市、南三陸町、石巻市で活動するクリスチャンネットワークは協働と共助によって成し得た賜物でした。

震災地ではクリスチャンの生活習慣は世間にはあまり知られていません。なのでクリスチャンも亡くなった方々を大切に思い偲ぶこと。何よりも生きている方々に寄り添うメッセージを届けたいこと。そんな追悼会にこそ伝えたい。その事も追悼会を催す大切な意図です。

来年は気仙沼市で追悼記念会が企画されます。その為には既にあるクリスチャンネットワークと協働し進めていきます。追悼会のテーマも2016年度、活動する中で決定します。是非に覚えて応援くだされば嬉しく思います。

「追悼記念事前コンサート」

高奈美香&藤田麻美&萩原ゆたか クリスマスコンサート

岩田史子&佐藤加代子 賛美&読み聞かせコンサート

小坂忠 イベントコンサート

3月 9日 気仙沼第一聖書バプテスト教会 参加者約46名

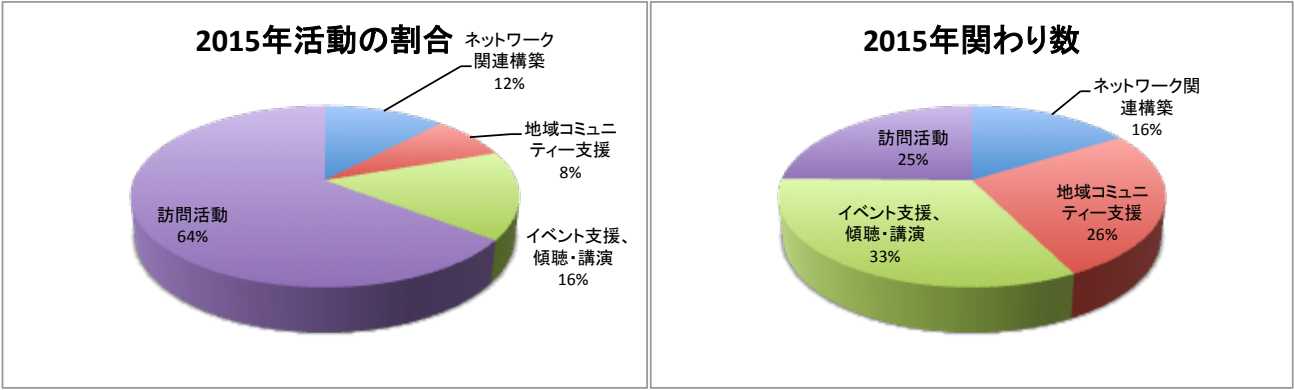
3月10日 渡波キリスト教会 参加者約80名

3月11日 石巻福祉会館みなと荘 参加者約180名

Ustreamライブビデオ 参加者約280名 (トラブル中断)



昨年半ばにエルブランドが廃車となった。その後、軽四を購入しました。ですが、東北ヘルプで身体のことを心配してくださり、法人が以前から使用していますプリウスを手配してくださいました。この車両使用に関しても、遠出する方が優先して利用できるのですが、ほぼ毎日を私が使っています。その事で去年も身体に負荷をかけることなく、様々な活動ができました。
その資金は、勿論、東北ヘルプに捧げて下さった尊い資金、また、架け橋に捧げてくださった尊い献金、基金があつての事です。簡略ではありますが、どのような活動と関わりがどれほどあつたかを記載します。



	ネットワーク関連構築	地域コミュニティ支援	イベント支援、傾聴・講演	訪問活動
1月（名）	68	140	60	30
2月（名）	110	60	120	90
3月（名）	100	90	0	70
4月（名）	35	170	140	105
5月（名）	75	0	210	130
6月（名）	83	95	90	170
7月（名）	90	70	220	190
8月（名）	43	80	290	110
9月（名）	80	70	110	70
10月（名）	24	150	72	120
11月（名）	85	160	130	84
12月（名）	75	340	320	160
合計人数	868	1425	1762	1329

※ネットワーク関連（キリスト教団体及び他団体との会議及び交流）※地域コミュニティ支援（医療支援、物資及び経済、他の団体の協力で地域群をサポートした件数）※イベント支援（コンサート、講演、傾聴）※訪問活動（個人訪問、地域リーダー）





南三陸町全体は津波によって壊滅しました。それにより被災にあった方々は山を大規模に削った高台移転が余儀なくされています。移転のピークが2016年4月から2017年末までかと思っています。ですがその間は課題が山積みです。例えば、移転時の引越費用が捻出できない。この訴えは、仮設住民から聞こえてきました。特に年金暮らしをしている方からの声でした。地元支援者と私では対応できない程の世帯数です。そこで地元議員や有力な支援団体と相談し、町議会で話し合った結果、家計の苦しい方のみ南三陸町で考慮する事となりました。その他に問題が次々とありますが、その課題を解決するには地元の方々で考え、支え合う事が肝心となります。

架け橋の使命は、聖書の教えを如何に地域に浸透させていくのか、そして

て、クリスチャンが社会に貢献することで、地域にどのような恵みをもたらすのかを実践すると同時に検証する事にあります。

そこで、震災直後からの活動を整理しようと思っています。また、震災直後から今までに起きた数多くの反省や関わりの事例をもどのように乗り越えてたのかを分析し、今後の実現に繋げようと考えました。

架け橋の働きは、地域貢献による宣証です。そのことを十分に理解して進めて行きたいと思います。



被災地においては様々な課題が発生しています。特に日本で抱える2025年問題を前にいち早く発生しているのが地方です。被災地では震災被害により、既に表れていると言えます。社会が抱える問題に無関心でいる訳にはいかないのです。地方が抱える早急な解決の鍵は自治会にあると言われています。実際に福祉的地域にしようとして試みている自治会もあります。そこに宗教の参加はできません。なぜなら危険視されているからです。それと最も信用されていない、その事が原因です。ですが、クリスチャンとして参加することはできます。それは既に震災での活動で実証済みです。そして、教会（共同体）は「クリスチャン」を通して地域を応援する事ができるのです。

現在、仙台市で自治会を通して困りごとと支援を開始しています。試行錯誤ではありますが、仙台で形成された、NPO法人仙台支え愛サポートセンターによって話し合いが重ねられています。この法人は、要支援1、2と要介護1制度が変わる事を踏まえ、自治会との協力により良い地域を作ろうと考えています。



要支援認定を受けている方が一切サービスを利用できなくなるわけではありません。「訪問介護」「通所介護」が介護保険の適用外となるということです。適用外＝自己負担と言うことですよね。ただしその金額は市町村ごとに変わってきますし、ある程度の補助も見込めます。



社会貢献にとって大切なのが、個人の賜物が社会で発揮されることです。それで生きた証しとなります。また、教会（共同体）は社会貢献する人を応援することです。地域を豊かにすることにより教会は繁栄すると考えます。

個々のクリスチャンの生き方を通して提供していく伝達こそ、文化に向けた宣証と考えているのです。そして宣証伝達は、生きてきた方の文化や風土の否定からはじまってはいけません。イエス様から頂いた憐れみの心をもって理解し、謙虚な立ち振る舞いから始まると考えます。そして何よりも福音を自らの人格化とする、生活習慣が鍵となると思っています。全ての五感を通して伝えるので、相手は大切なことに気付くのです。

尊いご支援を心から感謝致します。

「地域支援ネット架け橋」

前回繰越金：322,169円

活動収入：1,271,319円（201512月bー2016年3月）



ハワイホノルルチャーチ・基督聖協団信徒会・基督聖協団名古屋教会・基督聖協団弘前富士見教会・タナカヨウコ・基督聖協団千葉教会・基督聖協団西入間教会・基督聖協団中川教会・基督聖協団上田教会・基督聖協団西入間教会・基督聖協団青梅教会・基督聖協団八王子教会・基督聖協団青梅教会・清瀬グレースチャペル・日本イエスキリスト教団京都聖徒教会・基督聖協団相模原教会・基督聖協団弘前富士見教会・船堀グレースネットチャペル・基督聖協団中川教会・基督聖協団上田教会・基督聖協団西入間教会・サトウユキオ・カヤモリマサコ・ユダカズコ・ミッションみちのく・東北ヘルプ

- * 支出合計金額：1,535,657円（2015年12月b-2016年3月）車両交通費（車両経費含む）、事務費、通信費、啓蒙活動費、ネットワークサポート、衛生費、食費、慶弔費、保険、修繕費、被災地年中行事サポート（餅つき会、年始支援）、雑費、茶話会（傾聴費）、地域・自治会コミュニティ支援、スタッフ費（月1名3万円から5万）、3.11宮城三陸東日本大震災追悼記念式典費（2016年）、からし種コミュニティサポート指定献金
- * 次回繰越金：57,831円

私たちの働きは今後も資金が必要です。お話しする機会も与えて頂き、引き続きご支援、応援の程を宜しくお願いします。



PayPalよりクレジットや海外より応援して頂く事も可能です。アドレスはyoshiko.n36@gmail.comです。

事務局：地域支援ネット架け橋 所在：宮城県仙台市青葉区愛子東3-14-22 電話：090-6628-0628
事務スタッフ：中澤佳子／活動スタッフ：中澤義道

【お振込口座】-----私たちの活動のために
七十七銀行 宮城町支店
口座番号：普 5497795
名義：キリスト聖協団西仙台教会かけはし会計 中澤佳子

【追伸】 2012年から南三陸町のボランティアが減少します。同年3月11日以後では道を行き交う車両も一気に減ります。復興には被災地に来て頂く事が欠かせません。様々な町のイベント等を考えますが一時の事です。現実にはそうは上手くいかないものです。そんな時にクリスチャンは南三陸町を訪れると、必ず岩手と登米にあるキリシタン資料館へと足を向けるのです。被災地と史実が上手く繋がらないかと考えていました。そして、いよいよそれが実現します。別紙でパンフレットを用意しました。この為に東北ヘルプ、B. F. P. Japanを通してシオントラブル、登米市にある東和観光、登米市行政、大籠キリシタン資料館、白百合女子大学、南三陸町ホテル観洋、南三陸町観光協会、OM宣教団（敬称省略）の協力があったの事でした。特に東北ヘルプ事務局長川上直哉氏の働きに心から感謝するものです。東北のキリシタン史実は、まだ浅く今後が期待されます。キリシタン史実を通して、日本中との繋がりが生まれる事も楽しみにしています。